

～ 11日間のおもいで。～

七飯高等学校2年 木村有伽

この海外研修に参加できると決まったとき、外国という未知の世界に足を踏み入れることに溢れんばかりの喜びで、その日から期待で毎日落ち着きませんでした。そして出発の日が着実に近づいてくると、不安が楽しみな気持ちを押し上げるように募り、心境はとても複雑でした。

成田空港から飛行機に乗るとき、「これから日本を発つんだ。楽しいことも、辛いこともあるだろうけど、それでも戻っては来られないんだ。」という思いでした。12時間近くのフライト中にはアメリカに着いてからのことを考えて会話の勉強もしました。まもなく到着というアナウンスのあと、飛行機の窓からボストンの景色が見えて感動しました。そして入国審査の際に思わぬハプニングがあり時間はロスしましたが、全員が無事に揃ったときは本当に安心しました。



いざ、コンコードへ！

スクールバスで CCHS へ行くとサイファイクラブのみんなが迎えてくれていて、そこでホストファミリーの生徒と対面しました。生徒の名前を Shelby といいました。とても笑顔のかわいい女の子でした。さらにお母さんの Karen さんとお父さんの Darren さんも迎えに来てくれて、中高生とそれぞれのホストファミリーみんなでカフェテリア

でピザを食べました。家に帰るとペットの Pearl という犬がいて、本当は犬が少し苦手だったけど彼女はすぐになついてくれたし、ホームステイしているうちに朝、Pearl が開いているドアの隙間から部屋に入ってきて私の寝ているベッドによじ登ろうとして起こしてくれました。とてもかわいくて、お母さんも「Pearl はあなたのことが大好きみたい」といってくれてうれしかったです。

家で少しくつろいだから、日本から持ってきたお土産を渡しました。お菓子、箸、手ぬぐい、日本の四季の写真が載ったカレンダー、七飯町からの T シャツ。どれも気に入ってくれたようでよかったです。すると今度は、ホストファミリーからもお土産をいただきました。「WALDEN POND」という英語の本、それと私の家族の分と私が所属する七飯高校英語部の分までありました。中にはテーブルクロスや写真立て、アメリカの古い硬貨や本が入っていました。

お母さんが Pearl の散歩に行くと言ったので私もついていき、その途中で私がつたない英語で話しかけると、真剣に目を見て話を聞いてくれたあと笑顔で答えてくれま

した。勇気を持って話した英語が伝わったこと、それに笑顔で返してくれたことに温かい気持ちになりました。

お父さんの第一印象は、体が大きくてサングラスを掛けていたしあまり喋らない人、だったのでちょっと怖かったです。でも本当は、無口だけどふとしたときに気を遣ってくれる(私が困っているときにチョコレートと、「これを使いなさい」と言って iPad を日本語版にして渡してくれた)優しいお父さんでした。そして Pearl が一番なついているのもお父さんなのです。お父さんが家に帰ってくると、尻尾を振って猛ダッシュで後を追いかけるのです。またこの日、Shelby の妹の Sydney は修学旅行に行っていて、金曜日に帰ってくる(この日は水曜日)ということでした。

私の英語力が無いために、言葉が通じないとたびたび iPhone や iPad を持ってきて何度もわざわざ翻訳に使ってもらうのが申し訳なくて本当に心苦しかったです。

この日は夜、FIVE GUYS というお店に行ってハンバーガーを食べました。車の中でも Shelby が iPhone を使って話しかけてくれました。ホームステイ初日の感想は、言葉の壁にぶつかって辛くて、このあとの5日間がとても長いように思えました。

二日目は、とにかく泣きました。伝えたいのに伝わらない歯がゆさとか、Shelby の困った顔を見たりすると本当に申し訳なくて、CCHS にいたときは我慢していたけど放課後、オーチャードハウスを見学するために派遣団のみんなに合流したとき、辛いよ、辛いよって言いながら涙が止まりませんでした。その後、気持ちを切り替えてオーチャードハウス、それと若草物語に使われた部屋を見ました。キッコさんは優しく、あのお洋服も自分で作ってるのよって言っていてすごいと思いました。

CCHS に通うのに少し慣れてきました。これは CCHS で授業を受けた初日から思っていたことですが、あちらの授業というのはとても自由でした。授業中にりんごを食べている姿を見たときは衝撃的でした。しかも何度も言いますが授業中なのにも関わらず教室内を立ち歩き、あろうことか勝手に教室をでて行くのですから動揺が隠せま



本が大好きな Shelby は読書中



Shelby と友達のリネア

せん。机の配置も日本とは大きく違います。先生の席を囲むように、会議をする

ときのような形になっていまし

た。生徒たちはどの授業でも先生の質問にとっても積極的に発言していました。

CCHS 内のラジオに出演させていただいたときには、一人ひとり日本にいる家族に現在の心境とメッセージを送ることができました。さらに、この日の夜にフットボール

の試合があり、なんとそのお知らせの紙を英語で読んでみない？と誘われ、せっかくだったので頑張って読むことにしました。突然の振りだったので、隅のほうでベンに教えてもらいながら覚え緊張で声が震えそうになりながら読みきりました。一箇所だけつまずいたのが未だに悔しいです。

そしてその日の夜にはラジオ放送した例のフットボールの試合をホストファミリーみんなで見に行きました。そこには、修学旅行でいなかった Shelby の妹の Sydney が帰ってきていました。ちょっとシャイで、お人形を集めていて、あと歌がとても上手な子でした。

CCHS のカフェテリアで開かれたパーティではイカ踊りをみんなで踊りました。おいしい食事を食べ、校内で迷い、一方通行の扉に閉め出され、Help Me!! と叫び、パーティのあとは私たち中高生とそれぞれのパートナーの子みんなで Jake の家に遊びに行き、スパに入りました。一部ですごくはしゃいでいる子もいて面白かったです。

休日には、ショッピングモールに買い物に行ったり、Shelby が乗馬のお稽古をしているというのでそこについて行ったりしました。モールに行った時も、お稽古に行った時も、流暢な日本語を話せる方に出会えてすごく嬉しかったです。

最後の夕食は、家族みんなでおいしくいただきました。

別れの朝、私のホストファミリーは Shelby だけだったけど CCHS 前に集まり、サイファイクラブのデイビット先生考案の「バイナラ」という言葉で別れを惜しみつつも CCHS をあとにしました。

ボストン視察ではショッピングもしたし、ハーバード大学も見だし、リスをあんな間近で見ることができるのに驚きでした。ボストンレッドソックスも見に行ったり、ダックツアーも私はすごく楽しかったです。みんなは疲れていたみたいで寝てしまっていました。

アメリカで他の派遣者の子の家に遊びに行った時、ホストマザーがお味噌汁と白いご飯を出してくれました。そのときには本当に日本が恋しくて込み上げるものがありました。しかし、帰るころには「思っていたことをうまく伝えられなかったのが残念だな」「間違いや失敗を恐れずに、もっと発言すればよかったな」とか、たくさんの後悔がやってきました。これらの後悔は、今はもうどうすることもできませんが、後悔を学びに変えて自分の将来に生かしていきます。もっと自分の気持ちを相手に伝えられるように、間違いから学べることはあるのだから、恐れずに。

今回、この海外研修に参加できたことを大変光栄に思っています。ここにはありませんが本当はまだたくさんの出来事がありました。コンコードで過ごした日々の出来事から、挑戦することや諦めないこと、自分という個性、相手を尊重し尊敬することなど、多くのことを知り、学ぶことができました。これらを知ったり学んだりするだけではなく一歩進んだところ、自分の実にしていけるよう、さらに成長できるよう努力します。派遣団の皆さんと楽しい時間を過ごせたこと、この貴重且つ有意義な研修に参加させてくださったことに本当に心から感謝しています。